

雪谷 高等学校 令和4年度（1学年用） 教科

地理歴史 科目 地理総合

教科： 地理歴史 科目： 地理総合

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： （1～6組：登山） （7組：伊達）

使用教科書： （高等学校 新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院））

教科 地理歴史 の目標：

- 【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、
- 【思考力、判断力、表現力等】 社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付ける。
- 【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的な考察や深い理解をするために、意欲的に学習に取り組む姿勢を身に付ける。

科目 地理総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
○地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 ○地図やGISなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	○地形の形成要因や災害への対策、各気候ごとの人々の工夫等を諸資料やグループワーク等を通して考察し、判断・表現する。 ○時差やGISがどのように活用されているか等について諸資料やグループワーク等を通して考察し、判断・表現する。 ○気候、宗教歴史的背景や産業等がそれぞれの地域の生活とどのように関わっているのか諸資料やグループワーク等を通して考察し、判断・表現する。	○世界の各地形や気候、日本の災害や防災について意欲的に学ぶ。 ○時差、地図、GISや日本の領域等について意欲的に学ぶ。 ○世界の諸地域と気候、宗教、歴史的背景や産業等との関わりについて意欲的に学ぶ。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
単元 世界の地形と人々の生活 【知識及び技能】 各地形とそれぞれの地形が人々の生活に与える影響を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 各地形の形成要因を諸資料やグループワーク等を通して考察し、判断・表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 各地形が与える影響について意欲的に学ぶ。	・指導事項 ・大地形と人々の生活 ・変動帯と人々の生活 ・安定地域と人々の生活 ・河川がつくる地形と人々の生活 ・海岸の地形と人々の生活 ・水河地形・乾燥地形・カルスト地形と人々の生活 ・教材 ・教科書 ・地図帳 ・フォトグラフィア地理図説 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 各地形とそれぞれの地形が人々の生活に与える影響を理解することができている。 【思考・判断・表現】 各地形の形成要因を諸資料やグループワーク等をもとに考察し、判断・表現することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 各地形が与える影響について意欲的に学ぶことができている。	○	○	○	7
単元 自然環境と防災 【知識及び技能】 日本で発生する自然災害、またその発生要因について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 各災害に対してどのような対策が必要か諸資料やグループワーク等を通して考察し、判断・表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 日本で発生する災害、またその対策について意欲的に学ぶ。	・指導事項 ・地震・津波と防災 ・火山災害と防災 ・気象災害と防災 ・教材 ・教科書 ・地図帳 ・フォトグラフィア地理図説 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 日本で発生する自然災害、またその発生要因について理解することができている。 【思考・判断・表現】 各災害に対してどのような対策が必要か諸資料やグループワーク等を通して考察し、判断・表現することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本で発生する災害、またその対策について意欲的に学ぶことができている。	○	○	○	3
定期考査			○	○		1
単元 世界の気候と人々の生活 【知識及び技能】 各気候区の分布や特徴を人々の生活との関わりを踏まえて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 各気候ごとの農業や人々の生活の工夫等を諸資料やグループワーク等を通して考察し、判断・表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 各気候の特徴や気候ごとの人々の生活について意欲的に学ぶ。	・指導事項 ・気温・降水と人々の生活 ・大気大循環と人々の生活 ・熱帯の生活 ・乾燥帯の生活 ・温帯の生活 ・亜寒帯・寒帯の生活 ・教材 ・教科書 ・地図帳 ・フォトグラフィア地理図説 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 各気候区の分布や特徴を人々の生活との関わりを踏まえて理解することができている。 【思考・判断・表現】 各気候ごとの農業や人々の生活の工夫等を諸資料やグループワーク等を通して考察し、判断・表現することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 各気候の特徴や気候ごとの人々の生活について意欲的に学ぶことができている。	○	○	○	10
定期考査			○	○		1

令和4年度 年間指導計画

東京都立雪谷高等学校

教科・科目	世界史B (必修・ <u>必選</u> ・自選)	対象学年	2	単位数	2	予定授業時間	70
教科書	詳説 世界史B 改訂版 (山川出版社)	担当者	福嶋 滋嗣				
副教材	最新世界史図説タペストリー十八訂版・要点整理ゼミナール世界史						

目標		<p>○近代欧米世界の特色について、日本の歴史と関連付けて考察させる。 ○欧米における近代国民国家の展開と社会や文化の特色について、日本の歴史と関連付けて考察させる。 ○現代世界につばがる近代史の歩みを理解させる。</p>					
学期	時数	指導項目	指導内容				
1 学期	40	<ul style="list-style-type: none"> ○産業革命 ○アメリカ独立革命 ○フランス革命 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各国の産業革命の様子と産業革命がもたらした世界的変化について理解する。・世界各国の産業革命の様子と産業革命がもたらした世界的変化について理解する。・13植民地の形成からアメリカ合衆国の成立までの過程を、諸外国の動きを含めて理解する。・独立戦争の社会革命としての側面や、その後のフランス革命やラテンアメリカ諸国の独立に与えた影響を理解する。・13植民地の形成からアメリカ合衆国の成立までの過程を、諸外国の動きを含めて理解する。・独立戦争の社会革命としての側面や、その後のフランス革命やラテンアメリカ諸国の独立に与えた影響を理解する。・フランス革命の勃発から進展の過程を、革命を主導した社会層の変化に着目しながら理解する。・フランス革命が急進化していった背景を理解する 				
2 学期	40	<ul style="list-style-type: none"> ○ナポレオンの大陸支配 ○ウィーン体制 ○ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナポレオンの国内政策と征服活動について理解する。・ナポレオンの政権獲得とブルジョワジーの利害との関係や、ナポレオンの征服活動と各国のナショナリズムの勃興との関係を理解する。・ウィーン会議の目的・影響と会議における列強の動きを理解する。・ウィーン体制の成立・動揺・崩壊の過程を理解する。・ウィーン体制下においてイギリスとロシアが果たした役割と影響について理解する。・1848年にヨーロッパ各地で起こった一連の革命・民族運動の経緯を理解する。・1848年の革命の限界点や、東西ヨーロッパでの内容の違い等について理解する。・クリミア戦争の世界史的意義を理解する。 ・イタリアとドイツの統一の背景となったヨーロッパの国際情勢の変化について理解する。 				
3 学期	25	<ul style="list-style-type: none"> ○南北アメリカの発展 ○19世紀欧米の文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラテンアメリカ諸国の独立がヨーロッパのウィーン体制に与えた影響を理解する。・アメリカ合衆国における民主主義の発展の影にあったインディアンや黒人、移民の問題を理解する。・19世紀の欧米文化の潮流が、ヨーロッパの政治・経済の状況に呼応していることを理解する。 				
評価の観点と方法		<p>評価の観点: 関心・意欲・態度・思考・判断・技能(資料の読み取り)・知識 方法: 定期考査・小テスト・ワークシート総合的な判断を行う。なお成績については1・2学期は10段階、学年末は5段階で評価する。</p>					

令和4年度 年間指導計画

東京都立雪谷高等学校

教科・科目	日本史B (必修・必選・自選)	対象学年	2	単位数	3	予定授業時間	105
教科書	詳説 日本史	担当者	西 悠介、田口 良、登山 絢太、百瀬 雅治				
副教材	日本史通覧、ウイニングコンパス						

目標	<p>○近代国家の形成と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。 ○近代国家の展開と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。 ○現代社会の出发点となる近代史の歩みを理解する。</p>						
学期	時数	指導項目	指導内容				
1 学期	40	<p>○開国と幕末の動乱 ○明治維新と富国強兵 ○立憲国家の成立と日清戦争 ○日露戦争と国際関係</p>	<p>○開国により幕政の在り方が変化し、朝廷権威が高まったことと我が国が国際社会の枠組みに組み込まれたこと、通商条約調印が、明治維新後の新政府にとって大きな課題となったことを理解させる。 ○公武合体派が政局の主導権を握っていく過程と倒幕運動の展開と、徳川慶喜が目指した政権構想について理解させる。 ○文明開化が政府主導の近代化政策であり、欧米諸国と対等の地位へ引き上げようとするものであったこと、朝鮮など近隣アジア諸国に対して、欧米諸国と同じような姿勢をとったことを理解させる。 ○立憲政治確立までの過程とその意義を理解させる。 ○条約改正交渉の成否の背景に、国内の法体制の整備、国際関係の変化があったことを理解させる。 ○日清戦争後の東アジア情勢を把握するとともに、それが日露戦争へつながっていったことを理解させる。 ○藩閥政府と民党という対立軸が無くなり、政党の官僚化、官僚の政党化が進んだことを理解させる。 ○日比谷焼き打ち事件以後、民衆の政治意識が高揚していったことを理解する。また、日露戦争の勝利がアジア諸民族の独立や近代化に刺激を与えたことを理解させる。 ○韓国併合後の朝鮮と日本社会の変化について理解させる。</p>				
2 学期	40	<p>○近代産業の発展 ○近代文化の発達 ○第一次世界大戦と日本 ○ワシントン体制 ○市民生活の変容と大衆文化</p>	<p>○産業発展の背景に、近世以来の教育の普及と就学率の高さがあったこと、富国強兵・殖産興業の政策上から科学技術の移植と研究が進められたこと、思想界の動向について理解させる。 ○教育の普及や交通・通信・出版の発達によって近代化が進んだことを理解させる。 ○護憲運動以後の内閣は、民衆の動向に細心の注意を払って対応していかなばならなくなったことを理解させる。 ○政治の民主化を求める国民の声は、大正デモクラシーの思潮を生み、政党政治の発展を可能にしたこと、普通選挙法への対応などから原内閣の性格について理解させる。 ○第一次護憲運動と第二次護憲運動の違いについて理解させる。また、二大政党による政党内閣制の意義について理解させる。 ○社会運動の発展は国内の地位的な経済格差が問題となり、二重構造となっていたことを理解させる。 ○二十一カ条要求などにより中国に権益を拡大していったことを欧米諸国や社会主義国との関係を踏まえて理解させる。 ○五・四運動と三・一独立運動について、その後のワシントン体制下の日本の協調外交の展開を関連付けて理解させる。 ○大戦景気により日本の独占資本主義が確立し、財閥による金融・産業支配が確立したことを理解させる。</p>				
3 学期	25	<p>○恐慌の時代 ○軍部の台頭 ○第二次世界大戦</p>	<p>○世界恐慌の発生やその対応策としての保護貿易主義の広がりという世界経済の構造的な変化の中で、日本はどのような対応をしたのかを理解させる。 ○軍部の政治的な進出の影響について理解させる。 ○金融恐慌や昭和恐慌に対する経済政策と政治・経済・外交に与えた影響について理解させる。 ○対外政策の推移を国内の政治・経済状況や国際環境と関連付けて理解させる。 ○戦争の長期化による外交関係の変化、国内経済や国民生活への影響、学問・思想・教育などへの統制について理解させる。 ○日本の敗戦に至る過程をたどりながら、国内外の戦争の悲惨さを連合国側の動向も踏まえて理解させる。</p>				
評価の観点と方法	<p>年間5回の定期考査・提出物を考慮し、総合的な判断を行う。なお成績については1・2学期は10段階、学年末は5段階で評価する。</p>						

令和4年度 年間指導計画

東京都立雪谷高等学校

教科・科目	日本史B (必修・ 必選 ・自選)	対象学年	3	単位数	4	予定授業時間	140
教科書	詳説 日本史	担当者	田口 良				
副教材	図説日本史通覧、詳録新日本史史料集成、ウイニングコンパス日本史						

目標		<ul style="list-style-type: none"> ○原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。 ○中世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。 ○近世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。 	
学期	時数	指導項目	指導内容
1 学期	55	<ul style="list-style-type: none"> ○文化のはじまり ○農耕社会の成立 ○古墳とヤマト政権 ○飛鳥の朝廷 ○律令国家の成立 ○平城京の時代 ○平安朝廷の形成 ○摂関政治 ○荘園と武士 ○院政と平氏の台頭 ○鎌倉幕府の成立 ○武士の社会 ○蒙古襲来と幕府の衰退 	<ul style="list-style-type: none"> ○旧石器文化から縄文文化への移行とその違いを、具体的な遺跡や遺物について理解させる。 ○弥生時代の社会の変化を大陸文化の影響と関連付けて理解させる。 ○邪馬台国の呪術的宗教的権威と政治的権威を理解するとともに、その位置をめぐる論争の意義を理解させる。 ○大和政権の支配体制や古墳文化の各時期の特色を大陸から渡来した人々との交流など東アジア諸国との関係に着目して理解させる。 ○東アジア世界の動向や国内情勢の変化を背景に推古朝の改革、唐の影響の下に成立した日本の律令制度は、単に模倣ではなく、日本の実情に合わせて制度化されていることを理解させる。 ○平城京の時代を遺跡や遺物、文献などを基に考察し、支配領域の拡大や土地支配の強化などについて理解させる。 ○平安初期の政治改革を理解させる。 ○摂関政治が古代社会が大きく転換する中でとられた政治形態であったことを理解させる。 ○摂関政治が古代社会が大きく転換する中でとられた政治形態であったことを理解させる。 ○朝幕関係の二元的支配の状況が大きく変わり、朝廷に対する幕府優位の関係が生まれたことを理解させる。 ○武士の土地支配の拡大などについて、多面的に理解させる。
2 学期	55	<ul style="list-style-type: none"> ○室町幕府の成立 ○幕府の衰退と庶民の台頭 ○戦国大名の登場 ○織豊政権 ○幕藩体制の成立 ○幕政の安定 ○経済の発展 ○幕政の改革 ○幕府の衰退 	<ul style="list-style-type: none"> ○室町幕府の成立と展開について理解させる。 ○応仁の乱の意義を理解するとともに、戦国大名による分国支配の特色について理解させる。 ○諸産業の発達により庶民が台頭し、地域的な要素が強まり、自治的な惣村の形成や一揆の組織が成立したことを理解させる。 ○兵農分離政策や身分制度の形成など織豊政権が近世の政治・経済や社会の基盤形成に果たした意義を理解させる。 ○幕藩体制の確立によって成立した近世社会の特色について、世界の動向と関連付けて理解させる。 ○鎖国体制に至る過程やその影響、鎖国下でも関係のあった国や地域との交流の特色とその歴史的意義を理解させる。 ○元禄時代や正徳の治の具体的な政策を理解させる。 ○農業・商業の発展や陸上交通・海運の整備、貨幣制度などの具体的な発展とその特色を理解させる。
3 学期	30	<ul style="list-style-type: none"> ○入試問題演習 	
評価の観点と方法		年間4回の定期考査等により、総合的な判断を行う。なお成績については5段階で評価する。	

令和4年度 年間指導計画

東京都立雪谷高等学校

教科・科目	世界史B (必修・ <u>必選</u> ・自選)	対象学年	3	単位数	4	予定授業時間	105
教科書	詳説 世界史B 改訂版 (山川出版社)	担当者	柴原 哲				
副教材	最新世界史図説タペストリー(帝国書院)十八訂番、詳説世界史改定版10分間テスト(山川出版社)、ウィニングコンパス世界史の整理と演習						

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○古代諸文明の特色について、日本の歴史と関連付けて考察させる。 ○イスラーム、ヨーロッパ、内陸。東アジア世界の特色について、日本の歴史と関連付けて考察させる。 ○近世、近代、現代とのつながりを理解させる。
----	--

学期	時数	指導項目	指導内容
1 学期	40	<ul style="list-style-type: none"> ○先史時代 ○オリエントと地中海文明 ○アジアアメリカの古代文明 ○内陸アジア世界と東アジア世界 ○イスラーム世界の形成と発展 	<p>猿人・原人・旧人・新人と進化の過程を把握するとともに、それぞれの人類の名称と発掘地を把握する。新石器革命の人類史的意義を理解する。アラム・フェニキア・ヘブライの三民族の特徴を理解する。初めての世界帝国を築いたアッシリアの支配と、アッシリア滅亡後の四国分裂期を経てオリエントを再統一したアケメネス朝の支配を対比して理解する。ヘレニズム的性格を持った遊牧イラン人の王朝パルティアと民族主義的な性格をもった農耕イラン人の王朝ササン朝を対比する。イラン民族の動向をオリエント史の中で通史で理解する。地中海世界のなかのギリシア世界を地理的に把握する。ペルシア戦争とアテネの民主政の発展の関連を理解する。ヨーロッパ文化のルーツとして、ギリシア・ヘレニズムの文化を理解する。共和政、帝政ローマの歩みをギリシア文明と比較して理解する。インドの宗教的土壌を理解する。統一王朝の変遷をインドをとりまく世界情勢とともに把握する。</p>
2 学期	40	<ul style="list-style-type: none"> ○ヨーロッパ世界の形成 ○内陸アジア、東アジア世界の展開 ○アジア諸地域の繁栄 	<p>ゲルマン人の大移動以後の西ヨーロッパの混乱と、西ヨーロッパ世界の再構築の過程を理解する。東ヨーロッパ世界の形成を、西ヨーロッパとの対比して理解し、今日につながる民族と宗教に着目する。十字軍遠征にみる教皇権の伸長と、その後の衰退を皇帝権や都市の成長との関係において理解する。イスラーム文化の影響に着目して中世ヨーロッパ文化を理解する。宋代の中国の国際関係に着目しつつ、唐代の文化と対比して国粋主義的な宋の文化を理解する。</p>
3 学期	25	○世界史学習の総まとめ	大学入学試験にむけて総まとめ学習をおこなう。

評価の観点と方法	<p>評価の観点: 関心・意欲・態度・思考・判断・技能(資料の読み取り)・知識 方法: 定期考査・小テスト・ワークシート総合的な判断を行う。なお成績については各学期ごとに5段階で評価する。</p>
----------	--

令和4年度 年間指導計画

東京都立雪谷高等学校

教科・科目	世界史演習(必修・ <u>必選</u> ・自選)	対象学年	3	単位数	2	予定授業時間	60
教科書	詳説 世界史B 改訂版 (山川出版社)	担当者	福嶋 滋嗣				
副教材	世界史図録(山川出版社)、ゼミナール世界史(浜島書店)、詳説世界史改定版10分間テスト(山川出版社)						

目標		<p>○近現代の特色について、日本の歴史と関連付けて考察させる。</p> <p>○アジア・アフリカの植民地化や帝国主義・列強対立による二回の大戦の特色について、日本の歴史と関連付けて考察させる。</p> <p>○古代・中世・近世とのつながりを理解させる。</p>					
学期	時数	指導項目	指導内容				
1 学期	22	<p>○オスマン帝国支配の動揺とアラブのめざめ</p> <p>○南アジアの植民地化</p> <p>○東南アジアの植民地化東アジアの激動</p> <p>○帝国主義と列強の展開</p> <p>○世界分割と列強対立</p> <p>○アジア諸国の改革と民族運動</p> <p>○第一次世界大戦とロシア革命</p>	<p>○パン＝イスラーム主義が唱えられ、全世界のムスリムが政治的に結束しようとしたことを理解する。</p> <p>○オスマン帝国の西欧化改革が外国資本への従属につながった要因を理解する。○タイが独立を維持できた背景を国際情勢との関連で理解する。</p> <p>○中国の伝統的な中華思想がイギリスの自由貿易の実現の妨げになっていったことを具体的な事例を挙げて説明できる。</p> <p>○太平天国が勢力を拡大した社会的背景について理解する。</p> <p>○洋務運動と明治維新を比較し、その相違を理解する。</p> <p>○日清戦争の結果が、その後の東アジア世界に与えた影響を理解する。</p> <p>○第二次産業革命の進展が、各欧米諸国間の帝国主義的対立を生んだ経緯を、1870年代の大不況を含めて説明できる。</p> <p>○欧米諸国で国民意識が醸成されていった背景に、公教育と軍隊組織の整備があったことを理解する。</p> <p>○帝国主義列強の対立が激化する中で、イギリスとドイツを中心とする二つの陣営からなる国際対立が形成されていったことを理解する。</p> <p>○アジア・アフリカで起こったナショナリズムの運動と近代化を目指した運動の限界について理解する。</p> <p>○日露戦争の世界史的意義を帝国主義列強間の対立と、アジア・アフリカ諸国の民族運動への影響という視点から理解する。</p> <p>○第一次世界大戦の結果もたらされた政治・経済の変化を理解する。</p> <p>○ドーズ案成立後の資本の国際循環について理解する。</p> <p>○1920年代のアメリカ合衆国で見られた保守的な傾向について、具体的な事例を挙げて説明できる。</p>				
2 学期	23	<p>○アジア・アフリカ民族主義の進展</p> <p>○世界恐慌とファシズム諸国の侵略</p> <p>○第二次世界大戦</p> <p>○東西対立とアジア諸地域の自立</p> <p>○冷戦構造と日本・ヨーロッパの復興</p> <p>○第三世界の自立と危機</p> <p>○米ソ両大国の動揺と国際経済の危機</p>	<p>○大衆的基盤をもつ民族運動の中で、第二次世界大戦後の各国の指導者が台頭してきたことを具体的な事例を挙げて説明できる。</p> <p>○各国がブロック経済政策を進めるに至った背景と、ブロック経済政策が世界情勢に与えた影響について理解する。</p> <p>○日本の軍部の台頭、イタリア・ドイツのファシズム諸国の動きを、世界恐慌の影響と関連付けて理解する。</p> <p>○独ソ不可侵条約と日ソ中立条約が第二次世界大戦にもたらした意味を理解する。</p> <p>○1941年の独ソ戦と太平洋戦争の開始が第二次世界大戦に世界戦争としての性格をもたらしたことを理解する。</p> <p>○第二次世界大戦の複合的な性格について理解する。</p> <p>○ドイツと日本の戦後処理の違いについて理解する。</p> <p>○冷戦の構造が政治体制とイデオロギーの対立であることと冷戦状態が継続した背景に核の抑止力が働いていたことを理解する。</p> <p>○フランスとドイツの歴史的和解が西ヨーロッパ統合の推進力になったことを、歴史的な経緯を踏まえて理解する</p> <p>○国際社会への復帰を果たした日本の課題を説明できる。</p> <p>○中東戦争の経過を第一次世界大戦時の秘密外交から理解する。</p> <p>○第三世界の台頭が国際情勢に与えた影響を具体的な事例を挙げて説明できる</p> <p>○先進国首脳会議の開催が国際経済体制にもつ意味を理解する。</p> <p>○新興工業地域の発展が進む中で、途上国の中にも経済格差が生まれていったことを理解する。</p>				
3 学期	15	入試対策	<p>○センター試験や共通テストの過去問や私立大学入試の過去問演習を通して、問題形式になれ、適切に設問に解答できるよう指導する。</p>				
評価の観点と方法		<p>年間4回の定期考査・演習等・小テスト。提出物により、総合的な判断を行う。なお成績については5段階で評価する。</p>					

令和4年度 年間指導計画

東京都立雪谷高等学校

教科・科目	日本史演習（必修・ <u>必選</u> ・自選）	対象学年	3	単位数	2	予定授業時間	70
教科書	詳説 日本史	担当者	西 悠介				
副教材	日本史通覧、日本史標準問題集						

目標		<p>○現代の社会や国民生活の特色について、国際環境と関連付けて考察させ、世界の中での日本の立場について認識させる。</p> <p>○現代史の流れを理解し、現代日本社会の成り立ちについて理解する。</p> <p>○大学入試の過去問演習を行うことで、大学受験に必要な知識の整理と問題形式に対応する力を養う。</p>					
学期	時数	指導項目	指導内容				
1 学期	22	<ul style="list-style-type: none"> ○55年体制 ○経済復興から高度成長へ ○経済大国への道 ○冷戦終結と日本社会の動揺 	<p>○日本の独立と日米安保体制の意義を冷戦や朝鮮戦争などの国際情勢や日本の地理的条件と関連付けて理解させる。</p> <p>○日本が国際社会に復帰したことの意義及び日本が国際社会において果たすべき役割を理解させる。</p> <p>○日本経済の高度成長による国際的地位の向上と外交問題などを関連付けて理解させる。</p> <p>○国民生活が多様化する中で、生活意識や価値観の変化が生じたことを理解させる。</p>				
2 学期	23	入試対策	○センター試験の過去問や私立大学入試の過去問演習を通して、問題形式になれ、適切に設問に解答できるよう指導する。				
3 学期	15	入試対策	○センター試験の過去問や私立大学入試の過去問演習を通して、問題形式になれ、適切に設問に解答できるよう指導する。				
評価の観点と方法		年間2回の定期考査・演習等により、総合的な判断を行う。なお成績については5段階で評価する。					